

## 第十三講 コリントス戦争とアルゴス

アルゴス：

前 418 年の寡頭派革命

「アルゴスの民主政を打ち倒そうと願っている人たち (boulomenoi ton demon ton en Argei katalysai: Thuc. 5. 76. 2)」

「そしてラケダイモン人とアルゴス人は、それぞれ一千名規模であったが、共同でシキユオンに遠征し、シキユオンに到着したラケダイモン人はより一層小人数の寡頭政を樹立し、その後彼らと一緒にアルゴスにおける民主政を打ち倒してラケダイモン人に都合のよい寡頭政を樹立したのだった(Thuc. 5. 81. 2)」

前 417 年の民主派革命

「そしてアルゴス人の民衆派は少しずつ集まって自信を回復し、ラケダイモン人たちのギュムノパイディア祭を注意深く睨んで、寡頭派に対して攻撃しかけたのであった。そして市内で戦いが戦われて民主派が勝利し、ある者たちを殺戮し、ある者たちを追放したのだった (Thuc. 5. 82. 2)」

コリントス同盟諸国とコリントス戦争

テーバイ(ボイオティア)・アテナイ・コリントス・アルゴス

国内の事情

党派間の対立

伝統的な親ラケダイモン派の存在

民主派と寡頭派

ペロポネソス戦争後の政治的潮流の変化

親ラケダイモン派政権から反対派へ(テーバイ：コイラタダス派→  
イスメニアス派)

アテナイにおける党派の多様化 (トラシュブロスやアニュトス派～  
ハグニアスやテレセゴラス～エピクラテスとケファロス派)

反スパルタ派の乖離(利害の乖離)：地主勢力と富裕者層・変革を願望している  
人々(コリントス)

民主派と寡頭派(亡命)

開戦に利用されたローカルな事情

テーバイとオルコメノスの反目  
フォーキスとロクリスの国境紛争  
スパルタとペルシアの武力紛争（コノーン）  
アルカディアにおけるマンティネイアとテゲアの不和  
アテナイとアイギナ（スパルタに艦隊基地を提供）

R. A. Tomlinson, *Argos and the Argolid: From the End of the Bronze Age to the Roman Occupation*, London, 1972.